



パラオ 歴史文化

ガイドブック

🇵🇵 2024 🇵🇵

Palau's history and culture
GUIDE BOOK 2024



令和6年度
島しょ地域青年交流事業
～沖縄の唄をパラオへ～

<主催> 特定非営利法人
沖縄平和協力センター

<助成> 公益財団法人
東芝国際交流財団

事業目的

- パラオを訪問し、博物館や遺跡などを訪れ、沖縄との歴史的なつながりを学ぶ
- 現地の青年層と交流し、交友を深める
- 沖縄の民謡を現地で演奏し、沖縄の文化を伝える

事業内容

- 事前研修を通じてパラオ地域の歴史、現状、そして沖縄とのつながりを学ぶ
- パラオに渡航し視察や同世代の若者との交流を行う
- パラオを知ってもらうための広報媒体を作成し、沖縄県下で情報発信を行う



Participants in the Program

Profile—MAYA SHINJO

しんじょう

新城 まや

Age Profile

23 2001年生まれ
那覇市出身/三線担当



琉球大学人文社会学部琉球アジア文化学科歴史民俗学プログラム3年次
中学校3年生から八重山出身の祖父に歌三線を習い始める。
参加理由：暮らしと文化の関わりについて考えたかったため

Profile—HARUNA KINJO

きんじょう はるな

金城 晴奈

Age Profile

22 2002年生まれ
那覇市出身/三線担当



琉球大学国際地域創造学部観光地域デザインプログラム4年次(休学中)
8歳から三線(琉球民謡)を習い始める。
参加理由：沖縄の伝統文化を世界で発信することに興味を持っていたため

Profile—HINA KOHARA

こはら ひな

小原 陽奈

Age Profile

21 2003年生まれ
新潟県出身/エイサー・サンバ担当



琉球大学教育学部小学校教育コース社会科専修3年次
大学で沖縄に進学、エイサーサークルに入りエイサーを始める。
参加理由：太平洋戦争前から今につながる歴史を学びたいと思ったため

パラオってどんなところ？

300以上の島からなる

300以上の島々からなる国ですが、9つの島に1.8万人が暮らしており、それ以外は無人島です。無人島の総称を「ロックアイランド」といい、世界複合遺産に登録されています。

公用語が日本語!?

アンガウル州では、世界で唯一、日本語が公用語として定められています。また、パラオでは約1000個の日本語由来の言葉が使われています。

健康面での課題

パラオは肥満率世界第2位です。アメリカ統治時代の影響で高カロリーの食事や、缶詰などの輸入品がよく食べられるようになったことが原因と言われています。

沖縄との類似点

パラオは沖縄と似ている点が多くありますが、自然環境もその一つです。高温多湿で、台風の影響も受けやすいです。さらに、海がとてもきれいな点も似ています。

日本との時差がない

日本のほぼ真南に位置しているため、時差はありません！時差ボケしないので、観光にはもってこいの場所です。

統治された過去

パラオは、昔から様々な国に統治されてきました。スペイン→ドイツ→日本→アメリカの順です。数々の困難を乗り越えて1994年に独立しました。

パラオ っってどうやっていくの？

東京から約3,200km、沖縄からは約2,200km離れた国です



私たちが利用したルート



那覇空港/OKA
7:30~9:30

現在、定期便で日本からパラオへの直行便はないため



関西空港/KIX
11:00~16:00

グアム国際空港を経由して
向かうルートが一般的です。

※ユナイテッド航空は2025年夏よりパラオのコロールへの直行便を新たに開設することを発表しました。
(2024年10月現在)



グアム空港/GUM
19:00~20:00

プライベートジェットを使えば、
成田空港から直接



パラオ空港/ROR

パラオ国際空港に
行くことができます。

約12時間半の旅

パラオ歴史文化ガイド **Contents**

巻頭インフォメーション

プログラム説明 / 参加者紹介

パラオミニ知識1 パラオってどんなところ？

パラオミニ知識2 パラオってどうやっていくの？

【歴史編】知れば知るほど興味深い

異文化の波に揺られて：パラオが迎えた時代の変遷

日本統治時代の遺産が形作る現代のパラオ

パラオ独立30年：過去から未来へ続く物語

【つながり編】意外なつながりが多数!?

日本とのつながり

沖縄とのつながり

【私たちの旅程編】パラオ旅行の参考になるかも！

Day1 日本語補習校/ガラスマオの滝/スランゲルスーパー

Day2 戦跡巡り/エピソンミュージアム

Day3 JICAパラオ事務所/アイメリーク小学校/マルキョク小学校

Day4 シティズンセンター/ガラス細工体験/PCC

巻末インフォメーション

南太平洋の楽園で見たリトルジャパン

新たに見つけた伝統文化/芸能の価値

「戦争終わってみんな帰った。私だけ残して」



異文化の波に揺られて

パラオが迎えた時代の変遷

パラオには約4,000年前から人が住んでいたとされています。独自の文化が育まれていました。1885年にスペインの、1899年にはドイツの領地になりました。この2か国の統治はとても過酷なものでした。1919年、パラオは日本の委任統治領（実質的な植民地）になり、多くの日本人が移住しました。その中で、日本はインフラ整備に努めました。第2次世界大戦では大きな戦いはあったものの、現地の人々の被害は非常に少ないものでした。終戦後、アメリカの統治が始まります。そして30年前（1994年）ついに念願の独立を果たしました。

▲歴史的な家「バイ」

「バイ」は、政治的な決定が行われる場所です。パラオには複数の氏族がありますが、その代表者が集まって会議をします。今でもバイがあった場所で下した決定は「重く、覆すことが難しい」とされているのだそうです。屋根の下の壁面には、パラオに代々伝わる物語が彫刻や絵で描かれています。



神聖な生き物“蜘蛛”

パラオで蜘蛛は神聖な生き物とされています。バイの壁画やストーリーボードのデザインにもよく登場し大切にされています。



▲ストーリーボード

バイに描かれているような伝統的な作品を後世に受け継ぐためにできたもの。日本の土方久功さんによって広められました。現地では「Itabori」と呼ばれます。

<写真：pacific island timesより>



▲伝統的な食事

魚介類と根菜類がよく使われているのが特徴です。主食はタロイモですが、ココナッツやキャッサバ、魚や貝類などもよく使われます。コウモリを食べることもあり、スープとして食べられることが多いです。

日本統治時代の遺産と日本の支援



パラオには、日本統治時代（1919～1945年）の遺産が多く残されています。首都コロールを中心に整備されたインフラや、日本式の学校、道路、農業技術などがその名残です。ペリリュー島には第二次世界大戦中の激戦地跡があり、戦争の歴史を伝える遺構が保存されています。また、日本語由来の言葉や食文化も一部の地域に根付いており、地元住民との交流に影響を与えています。これらの遺産は、日本とパラオの歴史的關係を示すだけでなく、戦争の記憶を伝えつつ両国の友好関係を深める役割を果たしています。



駐日パラオ共和国大使館webページより > Embassy of the Republic of Palau

◀日本・パラオ友好の橋

パラオのコロール島とバベルダオブ島を結ぶ全長413メートルの橋で、日本とパラオの友好を象徴する建築物です。1996年に旧橋(KBブリッジ)が崩落した後、日本政府の支援で2002年に完成しました。耐久性と安全性を重視した日本の技術が活用され、交通の要所としてだけでなく、美しい景観と共に観光名所としても親しまれています。この橋は両国の長年の絆を反映し、未来志向の友好関係を象徴する重要な存在です。



◀アイメリーク小学校にある石碑

この石碑には日本国旗と共に「アイメリーク小学校の屋根の再建プロジェクト 日本国民からの援助2014」と記されています。これは小学校内に飾られているものですが、街中でもこのように日本が援助した建造物の脇にこのような日本国旗が描かれた石碑を見ることができます。



▲日本風の門柱

この写真は旧南洋庁パラオ医院本館であり、現在はパラオ・コミュニティー・カレッジという短大の事務棟として使われています。

旧南洋庁パラオ支庁▶

(現パラオ最高裁判所)

南洋庁とは、第一次世界大戦後に日本の委任統治領となった南洋諸島を統治するために設置された機関です。旧南洋庁関連施設の一部が現存しており、これは1938年～39年頃の建築物です。戦時中の空襲にも耐えた日本統治時代の建築技術を示す重要な遺構だとされています。



<日本建築学会大会学術講演梗概集 (北海道) 2004年より>

パラオ独立30年

過去から未来へ続く物語



▲ガラスマオの滝
自然豊かなバベルダオブ島にあるパラオ最大の滝。



1994年10月1日アメリカとの自由連合国として、パラオは独立を果たしました。パラオは憲法の非核条項にこだわったことで独立が遅れたことからわかるように、国民の環境意識が高く、環境政策において急進的です。



2024年10月1日の独立記念日のために、数日間に亘るイベントが開催されました。2024年は日パラオ外交関係樹立、及び独立から30周年を迎え、日本からも多くのゲストがイベントに参加しました。

< JICA海外協力隊の世界日記より >



▲ガラスマオの滝で出会った現地の方々



▲Palau Pledge (パラオ誓約)

“Palau Pledge”は“Palau Legacy Project”の一環として環境保護を目的とした世界で初めて入国時に誓約への同意を求めるものです。この誓約への署名で環境保護への意識が強まりました。

▼自然豊かなガラスマオの滝トレッキングコース



第一次世界大戦後の1914年から1945年まで、パラオは日本の統治下にありました。当時、日本は国際連盟の委任統治領としてパラオを含むミクロネシア地域を統治しました。この期間中、多くの日本人が移住し、インフラの整備や学校、病院、農業開発を進めました。コロールには日本統治時代の建物が今でも残っています。



パラオ第一国民学校跡 ▶
2013年9月沖縄パラオ友の会により建立



◀コロール島にある慰霊碑

第二次世界大戦中、パラオは日米の激戦地の一つとなり、特にペリリュー島の戦いが有名です。日本兵とアメリカ兵が激しく戦い、多くの犠牲者が出ました。現在も慰霊碑や戦跡が残り、日パ両国の平和の象徴となっています。

Connection to Japan

日本政府はパラオに対し、ODA（政府開発援助）を通じて経済支援やインフラ整備を行っています。例えば、橋や道路の建設、学校の整備などに日本の技術や資金が使われています。

- ▼日本国政府ODA
- 上水道改善計画の契約締結の様子(2016)



< 駐日パラオ共和国大使館webページより >

日本統治時代の影響で、パラオ語には日本語由来の言葉が多数残っています。

リヨリ→料理	ベントー→弁当
ボクグ→防空壕	センキョ→選挙
シドシャ→自動車	シンブン→新聞

また、スーパーでは日本製の製品が多く販売されていました。

- ▼スーパーで売られていた日本製のお菓子





▲コロール島にある「沖縄の塔」
 パラオの「沖縄の塔」は、第二次世界大戦で戦死した沖縄出身者を慰霊するため1990年に建立された記念碑です。ペリリュー島の戦いを含む戦闘で亡くなった人々を悼み、沖縄との歴史的つながりを象徴しています。

日本は戦前、パラオのコロール島に南洋庁を置き、南洋群島統治の中心地として開発しました。1937年にパラオに居住する日本人は1万1,391人で、このうち4割余を沖縄県人が占めたそうです。パラオのコロール島にある「沖縄の塔」は、沖縄県人や遺族が慰霊に訪れる場所です。太平洋戦争では、約3,400人の沖縄県人が空襲や飢餓などで犠牲になりました。



▲公園で楽しむ現地の方々と撮影
 パラオと沖縄では、家族や地域社会のつながりが非常に強い点も共通しています。パラオでは、家族単位や共同体（クラン）が重要視され、協力し合う文化があります。沖縄でも、地域の結びつきが強く、「ゆいまー（助け合い）」の精神が今でも生きています。



▲南洋移民が残した民謡
 沖縄には南洋移民が残した数々の唄が残されています。移民先での様子を歌ったり、故郷を想って歌ったりされています。残された唄によって当時の情景が思い浮かんできました。

沖縄的な食文化



◀「スパムむすび」と「タマ」
 日常生活の中に沖縄的な食生活が見受けられました。例えば沖縄の有名なソウルフード「ポーク卵おにぎり」が「スパムむすび」として地元の商店で売られていたり、見た目も味もサターアンダギーにそっくりな「タマ」という食べ物が売られていたりしました。



▲沖縄県玉城知事と
 パラオ共和国グスタフ国務大臣(2024)
 歴史的、文化的背景を踏まえて、政治の面でも連携を強化しています。
 < 沖縄県HPより >

TRAVEL PLAN

日本語補習校で沖縄の紹介



日本語補習校は毎週土曜日の午前中に開かれています。普段は現地の学校に通う子どもたちが、日本の教科書やワークブックを使って勉強していました。初めての演奏の場でとても緊張していましたが、温かい雰囲気です迎えてくれました。

子どもたちに沖縄みやげ
ガチャガチャを
プレゼントしました！



ガラスマオの滝へトレッキング



パラオ最大の滝。片道約40分のトレッキングを経て到着します。行く途中にある日本統治時代のトロッコ跡も見どころの一つです。3人とも滝へ到着するまででへつへつでしたが、頑張った先の絶景に疲れが吹き飛びました。

▼トロッコ跡と様子を伝える看板



スランゲルスーパーでの演奏



パラオ最大の商業施設でも演奏させていただきました。パラオ初の日系ラーメン屋さんもあります。唯一エスカレーターを設置していることでも有名です。多くの方々が私たちの服装や楽器、演奏に興味を示してくださいました。

▼日系ラーメン



TRAVEL PLAN

ペリリュー島ツアー

ペリリュー島ツアーガイド

平野 雅人 さん

大学卒業後、陸上自衛隊に勤務していた経験から、戦跡ツアーガイドにその特性を生かすことが出来ると思い、この仕事をしているとのこと。戦争の話を風化させてはならないという一心から戦跡ツアーガイドをしているそうです。



CANCELLED

台風の影響で船が
出航不可のため中止

ペリリュー島では1944年9月15日にアメリカ軍が上陸し、日本軍と激しい戦いが繰り広げられました。「ペリリュー島の戦い」といいます。日本軍の戦死者は10,022人、負傷者は446人にのぼり、最後に残ったのはわずか34人でした。

ペリリュー島ガイド平野さんによるお話と戦跡巡り



▲平野さんからお話を伺う様子



▲戦跡



▲慰霊碑

台風の影響でペリリュー島ツアーが中止になってしまったのですが、ロール島にはあまり影響がなかったため、ペリリュー島ツアーガイドの平野さんからペリリュー島の戦いをはじめとしたパラオの歴史についてお話を伺いました。ペリリュー島についてだけでなくパラオ全般の知識が豊富で、私たちが尋ねたすべての質問に答えてくださいました。また、平野さんはガイド中、平和教育としてではなく事実を伝えることを意識しているとおっしゃっていて、それがとても印象に残っています。

パラオ・サクラ会が寄贈した慰霊碑がありました。パラオ・サクラ会とは日本人とパラオ人の間に生まれた日系パラオ人によって設立された団体です。

エピソンミュージアムでの観覧



エピソンミュージアムでは建物の地下と1階にわたってパラオとミクロネシアの工芸品、展示物、写真、情報が所蔵されています。2階には展示物、芸術作品、ジュエリー、書籍、小物を販売する大きなお土産物屋があります。



TRAVEL PLAN

JICAパラオ事務所にて事業説明



パラオの基本的な情報だけでなく、日本・沖縄とのつながりや、JICAが行っている取り組み、海外協力隊の活動内容を紹介していただきました。

パラオのJICAは以下の3つに重点を置いて活動しています

- 01 持続可能な海洋の実現
- 02 社会基盤・産業育成基盤の強化、民間投資の支援及び人材育成
- 03 気候変動・環境問題・防災への対応

アイメリーク小学校にて演奏



▲小学校の壁のペイント

幼稚園生から中学2年生（8年生）までの子が通う小学校。全校生徒数は50人です。演奏を披露すると、とても喜んでくれました。カチャーシーも進んで踊ってくれました♪最後は一緒に給食もいただきました。

アイメリーク小学校の壁にはパラオの伝統的なものが描かれていました。

マルキョク小学校にて演奏



国会議事堂が近くにある首都の小学校。幼稚園生から8年生まで、100名が在籍している小学校です。校舎は第2次世界大戦前の日本統治時代の建物を増設して使っています。2年生のクラスと、学食でそれ以外の子たちに演奏を披露しました。パラオでは珍しい音楽に力を入れている学校で、演奏のお礼にと歌とダンスを披露してくれました。

豆知識 | パラオで「桃太郎」さんの歌が有名!?

パラオでは童謡「桃太郎」が有名らしく、私たちが演舞の最初に演奏するとみんなで顔を見合わせて喜んで、一緒に歌ってくれました!

TRAVEL PLAN

シニアシティズンセンターにて演奏



ここは、地域のお年寄りが日中集まる集会場になっており、その日訪れていた利用者やスタッフの前で演奏をさせていただきました。利用者の中に日本人の方が2名、また母親が日本人だという方もいました。私たちの演奏に、時折口ずさみ手拍子をしながら涙を流していたと後から知り、とても嬉しくなると同時に今回の活動の意義を感じました。演奏後に日本人の方とお話しさせていただきましたが、ゆっくりですがはっきりと日本語でお話されていた姿が印象的でした。

ガラス細工体験



日本人の方が運営する工房でガラス細工体験をしました。それぞれ好きな型紙を選びガラスコップに張り付けてデザインし、砂で加工するという内容です。それぞれオリジナルのコップを作り、個性あふれる作品が完成しました。工房内にある物販コーナーでガラス細工のアクセサリなどを購入することもできました。ここで得た作品を見ると、パラオの思い出をすぐに思い出すことができます。

パラオコミュニティカレッジにて交流・演奏



パラオ唯一の高等機関であるこの短期大学では、1970年より日本語が正規科目として取り入れられているそうです。ここで日本語を学ぶ一人の学生と私たちで、お互いに自国の文化を紹介するプレゼンを行いました。その中で私たちは演奏も行いました。その後、大学の先生や大使館の方など関係者を交えてグループに分かれ、複数のお題について英語で話し、最後にそれを全体にシェアするというチャレンジをしました。



<駐日パラオ共和国大使館webページより>

南太平洋の楽園で見たリトルジャパン パラオに刻まれた沖縄と日本のつながり

戦前の日本人移住者は約1万1千人。そのうち、4割あまりが沖縄出身だと言われています。

今回のプログラムを通して、3人が共通してつよく印象に残っていたのが想像を超える日本・沖縄の面影です。パラオには太平洋戦争で戦った日本人の慰霊碑や沖縄県人や遺族が慰霊に訪れる「沖縄の塔」などがあり、想像以上にパラオと沖縄・日本の深いつながりを感じられました。



「戦争終わってみんな帰った。私だけ残して」 戦に翻弄されパラオ人として生きる日本人女性

シニアシティズンセンターでお会いしたフヨコさん。お話していると、日本人だと教えてくださいました。太平洋戦争後、家族はみんな日本に帰りましたが、フヨコさんだけ残されて現地の夫婦に引き取られて育ったそうです。このような日本人、沖縄の人々は当時多くいました。日本に行くには何週間もかかり、幼い子供を連れて帰るのは難しかったからです。フヨコさんは今、87歳。ずっと日本のことを思い続けているそうです。

支配の爪痕

パラオが背負った多文化の重み

巻末 インフォメーション

今回のプログラムを通して、パラオのこと、そして、日本/沖縄との関わりについて3人でたくさん考え、意見を交わしてきました。研修を終えて私たちは、多くの方々にパラオに興味を持ってもらいたい、知ってもらいたいと考えるようになりました。このガイドブックが、みなさんのパラオを知るきっかけになっていたら嬉しいです。



新たに見つけた伝統文化/芸能の価値 言語や国籍の壁を越えて通じ合う心

私たちは滞在中に色々なところで演奏させていただきました。しかし初めてのパラオに知らないことも多く英語力も十分でないため、不安もある中、せっかくの貴重な経験を楽しもうという気持ちで挑みました。ほとんどの人が沖縄の音楽文化に初めて触れる瞬間だったと思いますが、みなさんとても温かい目で私たちの演奏を聴きいってくれました。特に不特定多数の方が訪れるスランゲルスーパーでは、買い物の足を止めて聴いてくれた方や、手拍子しながら一緒に歌ってくれた方、演奏後に私たちに声をかけに来てくださった方もいました。また、学校では子どもたちが楽器に興味を持ってくれたり、シニアシティズンセンターでは知っている日本歌謡曲を歌って聞かせてくれた方、日本とのつながりについて話してくれた方など、私たちの演奏が彼らと心を通わせるきっかけを作ってくれたと感じています。

Special Thanks



令和6年度 島しょ地域青年交流事業 パラオ歴史ガイドブック2024
助成：公益財団法人 東芝国際交流財団

TOSHIBA

公益財団法人 東芝国際交流財団

